

小倉記念

10年以上前からグレイソヴリン、ディクタスに相性の良いフランス指向のレース。

馬場は年々高速化していますが、
それでも末脚のスタミナが問われるケースが多いのが当レースの特徴。

本命はプリマヴィスタ。

父のハーツクライはその母父がグレイソヴリン系のトニービン。
同種牡馬の産駒も複数馬券になっています。

近走 2200m 以上経験馬。2200m 以上実績馬が走りやすいのも同様の理屈。

高速決着であっても、レース上がり 35 秒以上であれば着順が上がる馬。

相手本線は 2 走前に 2200m の京都記念で上がり最速で 4 着のジェラルディーナ。
2 走前以上のパフォーマンスを発揮できる舞台。

短縮歓迎のピースオブエイト。

関屋記念

ダンチヒ系をはじめとするノーザンダンサー系の
パワー型スプリントの血を持つ馬が古くから相性の良いレース。

本命はウインカーネリアン。

父は欧州型ノーザンダンサー系のスプンターが走るレースに
強いモーリスを出したスクリーンヒーロー。

当レースはオセアニア血統が特に強いのですが、
モーリスもオセアニアで大ブレイク。

母父はスプリンターのマイネルラヴ。

父ロベルト系。母父も非サンデー系でスプリント指向強い血統は、
昨年の勝ち馬ロータスランドと同じ。先行できる馬も有利。

ダノンザキッド、ゴールデンシロップも大型で
短距離指向強いノーザンダンサー系をそれぞれ母父、父に持つ馬。

520 キロ以上の大型馬の好走率が特に高いレース。
前走 520 キロ以上はこの 2 頭のみ。